

今日のトピック

最近の指標から見る豪州経済(2015年9月)

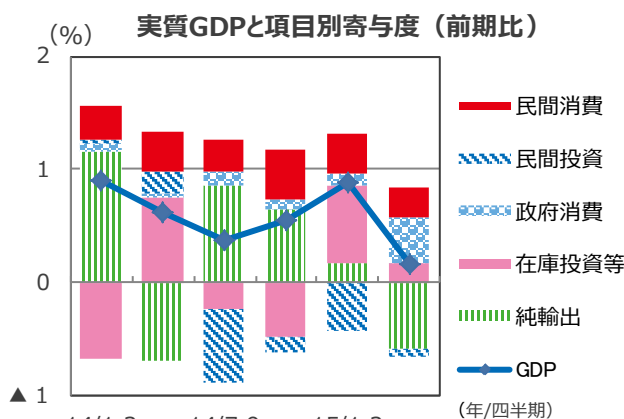
民間消費の拡大を支えに緩やかな回復を持続

ポイント1

4-6月期の成長率は鈍化

輸出の不振を消費がカバー

- 2015年4-6月期の実質GDP成長率は、前期比 +0.2%となり、1-3月期の同 +0.9%から減速しました。鉄鉱石や石炭等の資源輸出の大幅な減少と、それによる設備投資の低迷が主因です。
- 他方、良好な雇用環境を背景に民間消費は拡大を持続しました。民間消費は、7月も小売売上高が前年比 +4.2%になるなど、堅調を維持しています。



(注) データ期間は2014年1-3月期～2015年4-6月期。

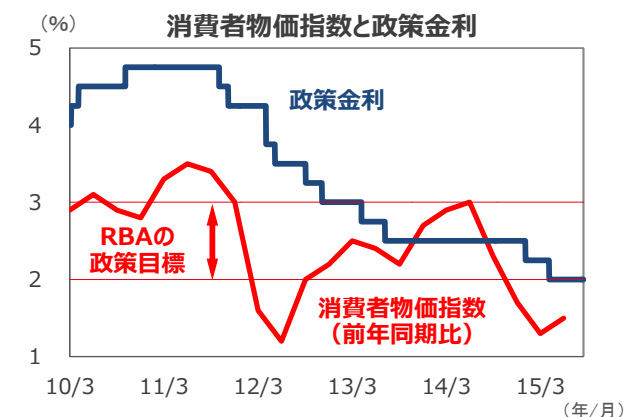
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2

物価は低位で安定

政策金利は4会合連続据え置き

- 4-6月期の消費者物価指数は、前期から伸び率が高まりました。ただ、水準は豪州準備銀行 (RBA) の物価目標を下回っています。今後も、賃金上昇率や原油価格が低位にあることから、安定的に推移する見込みです。
- RBAは、9月1日の会合で、政策金利を2.0%に据え置きました。4会合連続の据え置きです。緩やかな景気回復と低インフレの持続により、過去最低の政策金利は当面据え置かれそうです。



(注) 消費者物価指数は2010年1-3月期～2015年4-6月期。

政策金利は2010年3月31日～2015年9月15日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

景気は緩やかな回復を持続、豪ドルは徐々に底堅い推移へ

- 景気は、輸出、設備投資の低迷を民間消費、住宅投資の堅調さが補い、緩やかな回復が持続する見通しです。雇用環境は、企業景況感の改善などから、良好な状況が続くと予想されます。
- インフレは、失業率が高水準なことや資源価格の下落などから当面低位で推移する見込みです。
- 豪ドルの対円レートは、豪州の景気回復の持続見通し等から、底堅い推移が予想されます。

ここも チェック!

2015年 9月 9日 豪ドルの足元の状況と今後の見通し (9月)

2015年 9月 1日 豪中銀、4会合連続の政策金利据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。